

Antonín Dvořák



パクヒヨナ
朴賢娥

学位審査演奏会

Cello Concerto in A Major B.10 (Orchestrated by J. Burghauer, Japan Premiere)

チェロ協奏曲イ長調 B.10 (J.ブルクハウザー編曲、日本初演)

Klid (Silent Woods) Op. 68-no. 5, B. 182

《森の静けさ》作品68第5番 B.182



指揮 水戸博之

オーケストラ

朴賢娥 学位審査演奏会特別オーケストラ

2017年7月21日 [金]

18時30分開演 18時開場

東京音楽大学 A100周年記念ホール

入場無料

主催 東京音楽大学大学院博士後期課程

お問い合わせ先 東京音楽大学大学院(博士課程担当) TEL 03 - 3982-3207 メール tomdoc@tokyo-ondai.ac.jp

A. Dvák Cello Concerto in A Major B.10

最もポピュラーなチェロ協奏曲のひとつとして今日まで愛され続けている、アントニン・ドヴォルザークの「チェロ協奏曲短調作品104」(1895年)。しかし、この協奏曲が完成する30年前に、本人がオーケストレーションすることの出来なかった長調のチェロ協奏曲が、ピアノとチェロの編成で作曲されていました。研究主題でもある「オーケストレーションされていない本曲を一体どう演奏するべきか」というテーマのもと、ドヴォルザークの研究者である「ヤルミル・ブルクハウザー」のオーケストラ版を使い、指揮者水戸博之、特別オーケストラと共に、日本で初めての演奏を皆さんにお届け致します。

Profile

朴賢娥(パクヒョナ) チェロ

韓国出身。淑明(スクミョン)女子大学音楽大学器楽科を卒業。桐朋学園オーケストラアカデミー、大学院大学で修士課程を修了。ウィーン国立音楽大で演奏者課程(Postgradual)を修了。サントリーホール室内楽アカデミー第1期を修了し、2011、2012年'サントリーホールチェンバムミュージック・ガーデン'に出演。ソリストとして、ルーマニア国立放送交響楽団、ローマ・シンフォニーオーケストラ、ベルリン交響楽団などの様々なオーケストラなどと世界各地で共演。現在、東京音楽大学大学院博士後期課程にてドミトリー・フェイギンに師事、準特別奨学生として在学中。2016年、ロンドンにてオーケストラオブセント・ポールとのハイドンチェロ協奏曲第1番の演奏でイギリスハイドン協会から好評を博し、2017年4月にはメキシコのザポパンにてザポパンユース・オーケストラとA.ドヴォルザークチェロ協奏曲長調B.10を初演、好評を博した。2017/18シーズンにはベルリンにてベルリン交響楽団との協演などが予定されている。チェロをD.フェイギン、S.クロブフィッチ、O.ミュラー、堤剛、岩崎洗、銅銀久弥、チェ・ヒチョル、チャン・ソンウンに室内楽をA.コムジアン、J.マイスル、M.フェルナンデス、T.レオポルド、P.マツカ、P.シューマイヤー、藤原浜雄、若林顕、上田晴子、カルテット・エクセルシオに師事。

水戸博之 指揮

1988年北海道出身。東京音楽大学、及び同大学大学院作曲指揮科(指揮)を卒業。これまでに指揮を広上淳一、汐澤安彦、田代俊文、加納明洋、三河正典各氏に、ピアノを奥山優香、北島公彦、米田栄子、野田清隆各氏に、音楽理論を伊左治直氏に師事。これまでに京都市交響楽団、名古屋フィル・ハーモニー交響楽団、関西フィル・ハーモニー管弦楽団、東京交響楽団、読売日本交響楽団、サンアゼリアフィルハーモニカに客演。副指揮として日生劇場、藤原歌劇団のオペラ公演に参加。また、東京混声合唱団とも共演を重ねており、これまでにNHK交響楽団、東京都交響楽団、東京フィル・ハーモニー交響楽団の定期演奏会に同合唱団の合唱指揮者として出演する他、文化庁主催の巡回公演を指揮する。現在、オーケストラトリプティック常任指揮者、東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンス、八王子ユース弦楽アンサンブル副指揮者。2016年よりNHK交響楽団よりパーヴォ・ヤルヴィ氏のアシスタントに任命され、ヤルヴィ氏が指揮する同団の公演に携わる。

Access



東京音楽大学 アクセス

JR「池袋駅」東口または「目白駅」より徒歩約15分
私鉄西武池袋線・東武東上線「池袋駅」より徒歩約15分
地下鉄丸ノ内線・有楽町線「池袋駅」より徒歩約15分
副都心線「雑司が谷駅」1番出口より徒歩約5分
都電荒川線「鬼子母神前」より徒歩約5分
都バス「池袋駅」東口、池袋駅東口交番横から都バス(池86)「渋谷駅東口行」または(池65)「江古田二丁目行」「練馬車庫前行」乗車、「東京音楽大学前」下車徒歩約3分